

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月 16日

事業所名 児童発達支援事業所 Mana-B

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6名	0名	人工鼻やスピーチカヌーレに触れないように注意している。	
	2	職員の配置数は適切である	5名	1名	現場を離れる時には、職員に声掛けしている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5名	1名	生活空間はわかりやすい。	小児用トイレが少ないため、大人用トイレを利用時に子ども用便座を使用している。児童のお尻を洗うシャワー設置場所が適切でないと感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5名	1名	毎日清掃している。児童が触れる場所など、アルコールで拭いている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4名	2名		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6名	0名	意見箱やおたより帳を通じて、児童の家庭での様子や関わり方を把握し成長・発達を模索している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5名	1名		改善の内容をホームページや会報で公開はしていないが、改善の内容を利用者と関わりを持ちながら実践している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4名	2名	業務評価を参考にしながら業務改善に繋げている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6名	0名	月1回研修を行い多々気付きがあり意識しながら児童と関わりを持つ事ができる。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5名	1名		児童発達支援計画の作成はしていないが、児童の家庭や事業所での状態を自分なりに分析して児童に対応している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5名	1名		アセスメントツールを使用していないので、多いに活用したい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4名	2名		児童発達支援ガイドラインを勉強して子どもとの関わりを持ちたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5名	1名		児童発達支援計画を把握していないので、調べていきたいと思っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4名	2名		チームで行っていないが、児童との関わりの中での疑問は職員に聞いている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6名	0名	繰り返す事で児童は習得する部分もあるので、その後次の段階へ進んでいる。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5名	1名	集団活動を中心とし行事活動を行っている。個別に言語訓練を行う。	児童発達支援計画は作成していないが、個別活動と集団活動を組み合わせ、児童の成長発達に繋げている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4名	2名		打ち合わせはしていないが、週間活動の予定は組んでいる。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3名	3名	一部の職員間で行っている。	打ち合わせが出来ないが、大事な事だと思うので実行したい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6名	0名	記録は行っており、支援の改善につなげるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5名	1名		定期的には行っていないので、実行する必要性を十分に感じている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5名	1名		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5名	1名		連携した支援関係は難しいが、必要性は感じている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5名	1名		連携は難しいが、救急車に引き継ぎ前の勉強会は行っている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5名	1名		連絡体制を整えるよう努力している。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5名	1名		情報共有と相互理解は難しい。情報共有と相互理解を図るよう努力したい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6名	0名		情報共有と相互理解を図るよう努力必要。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2名	4名		親が児童発達支援センターや病院へ行って助言を受けているが、情報が入ってこない。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4名	2名	デイサービスへ訪問している。健常児を受け入れている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2名	4名		地域との繋がりを持つためには参加が必要と感じているため、努力したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6名	0名	おたより帳を通じて行っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6名	0名	保護者の勉強会を行っている。		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6名	0名	行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6名	0名	児童発達支援計画の説明をしながら、保護者からの同意を得て児童との関わりを持っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6名	0名	家庭や事業所での児童の状態をふまえ、保護者と連携を図りながら必要な支援を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5名	1名		保護者会はないが、時々保護者向けのペアレントトレーニングを行ったり、卒園式後に交流会を行っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5名	1名	対応の体制が整備されていない部分は個人的に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5名	1名	活動概要や行事予定を発行したり、掲示板に張り出し子どもや保護者に発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6名	0名	充分注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6名	0名	保護者の迎え時、当日の児童の状態をおたより帳に記載して口頭でも伝えている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4名	2名	知人や親戚に声掛けしている。	デイサービスへ行くが、事業所の行事に招待はしていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3名	3名	マニュアルは作成されていないが、救急車の呼び方やAEDの使い方、火災訓練、災害訓練を実施。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6名	0名	訓練を年2回行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6名	0名	朝の受け入れ時、保護者から情報を得ている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6名	0名	部屋にアレルギーの注意喚起をし、対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6名	0名	口頭で共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5名	1名	児童に声掛けして言葉で伝えている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5名	1名	身体拘束無く、のびのび育てている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。